

## ○ 平成30年度中央卸売市場事業会計決算について

### 1 市場事業会計の現状

市場事業会計は、少子高齢化等による食糧消費の減少や消費者ニーズの多様化、市場外流通の増加などの影響により、取扱額が減少傾向にあることや、市場の再整備に伴い、企業債償還金や減価償却費が高い水準で推移していることから、経常収支は赤字が続いている状況にあります。

また、経年劣化が進む水産保冷配送センターや立体駐車場などの再整備事業初期の施設については修繕費の増加が見込まれることから、今後も厳しい市場運営が続くことが予想されます。

このため、持続可能な市場運営を目指して、収入の増加と支出の削減を図るための施策に取り組んでおります。

### 2 平成30年度市場事業会計決算の概要

札幌市中央卸売市場事業会計は、市場を運営するための日常的な活動に必要な収入及び支出からなる収益的収支と施設の建設や改築及び設備更新などの整備にかかる収入と支出からなる資本的収支で構成されています。

1年間の経営成績を示す収益的収支及び資本的収支は下の円グラフのとおりです。

収益的収入は22億4,400万円で、市場の取扱額から算定する売上高割使用料が予算を下回ったことや空室が出たことにより、施設使用料が減少したことなどから、予算と比較して1,600万円の減収となりました。

収益的支出は24億3,500万円で、光熱水費や委託料などの市場管理費の減少により、予算と比較して1億900万円の不用額が生じています。

この結果、収入支出差引は、1億9,000万円の赤字となりましたが、予算と比較して9,300万円の好転という結果になりました。

資本的収入は9億4,200万円で、施設整備に係る費用の財源となる企業債の減少等により、予算と比較して2,400万円の減収となりました。

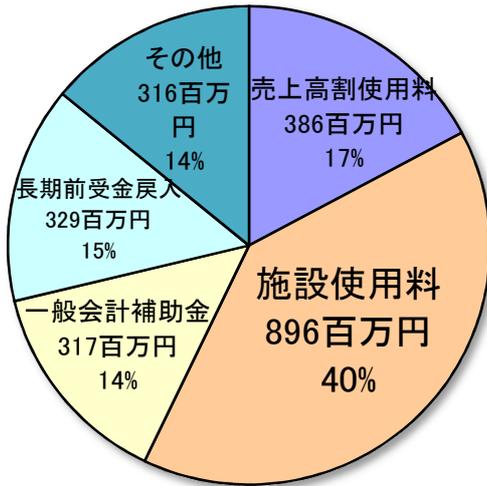
資本的支出は16億4,400万円で、建設改良費が減少したこと等により、2,800万円の不用額が生じています。

この結果、収入支出差引は、7億200万円の赤字となりますが、予算と比較して400万円の好転という結果になりました。

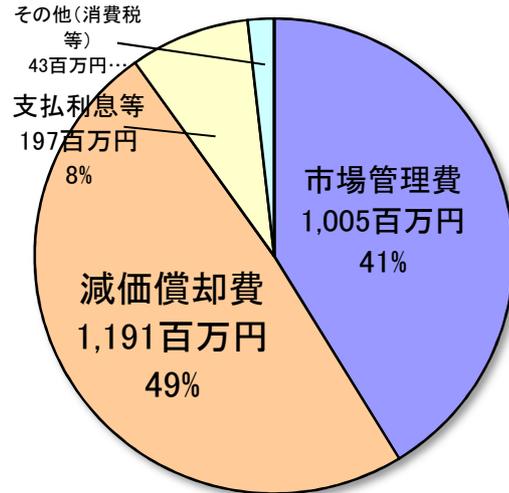
業務量では、水産物は鮮魚が好漁であったことから取扱量は増加したものの、冷凍魚介類及び加工品類の減少が大きく、取扱額は予算より減少しています。また、青果物では天候不順の影響により取扱量・取扱額ともに予算より減少しています。

建設改良事業は、市場設備の老朽化に伴い、機能・性能維持のためガスヒートポンプ室外機等の更新や軽減税率に対応させるため財務会計システムの改良を行いました。

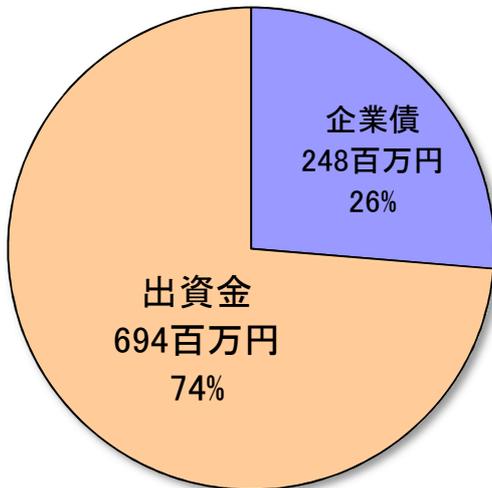
収益的収入(2,244百万円)



収益的支出(2,436百万円)



資本的収入(942百万円)



資本的支出(1,645百万円)

